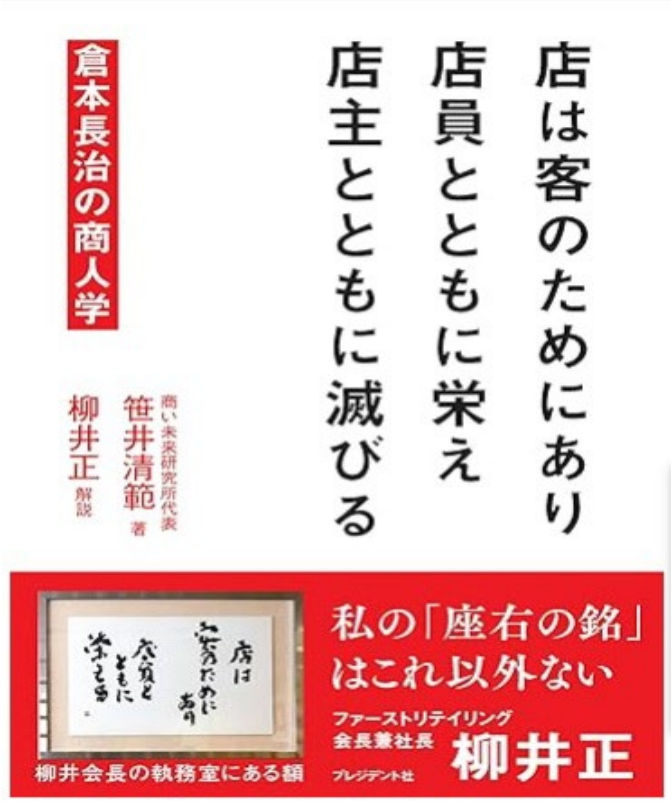
2023 年 11 月号

Community & Friend

有限会社アルファー
大阪府高槻市氷室町 4-13-3
吉田 清一郎

過去の月間通信は https://www.alphar-net.com/monthlymail.htm

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 11 月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。



さて、11 月だ。

11 月と聞けば、生まれ育った街の恵比寿購を思い出す。実家は東銀座と呼ばれるエリアにあり、JR 彦根駅に近い。井伊家の城下町。2 階から天守閣が見えた。その城は東が大手門で武士階級が近くに、その外に職人が住むエリアになっている。西には京橋口があり、そちらも間近には大きな敷地の家が並び、その外側に商人が住んでいたと思う。そのエリアは戦後西銀座と呼ばれていて、商店街としてはこちらが発展していた。だから恵比寿購は、こちらにテキ屋も集まる。

そして、恵比寿購といえば思い出すのが、ジョン F ケネディの暗殺事件である。事件後 60 年になる。記憶している新聞ネタはそう多くなく、一番古いのが 1958 年長嶋茂雄の読売巨人入団、59 年の伊勢湾台風、61 年の第二室戸台風、そして 63 年のケネディ暗殺である。どうでもいい事だが、いずれもトップの紙面画像を記憶している。とはいえ、ケネディ暗殺は画像ではなく、大見出しの黒帯に白地で『暗殺』と抜かれていた像が強烈で、画像はあまり覚えていない。むしろ、ジャクリーンが隣の夫を尻目にオープンカーの後ろに、座席から腰が抜けつつ這い出している場面が印象に残っている。63 年だから丁度自分が 10 歳の出来事。以来事件の全貌を知ったのは、起業も一段落し草野球に夢中になっていた 40 過ぎだからつい最近のこと。

時系列ばかり確認して恐縮だが、FRB の設立は第一次世界大戦開戦の前年 1913 年。いつからドルの発行権を FRB が握ったのかは、以前調べた時は出て来たが、今は如何して調べたか記憶になく、普通に調べても出て来ない。ただ、米議会が承認する手順が必要なので、12 月の議員クリスマス休暇が始まって間もなく、故郷に帰っている大半の議員を尻目に可決した後の記事だけが記憶に残っている。調べていくと、リンカーンも通貨発行権絡みで命を落としたと考えられているらしい。つまりケネディは政府発行のドル札を流通させようとし、各銀行に配置する前日だったらしい。

歴史には 60 年というひとつの単位があるそうだが、1945 年にドル基軸通貨システムが制定され、途中 72 年だか 73 年の金兌換性の廃止を経て、2025 年の 80 年後ドル基軸通貨性が終焉するらしい。当たり前のことだが沢山持っている人が、もっとたくさん持てるようにルール改正をする。このままの方が良いなら改正する必要は無いので、今はその仕組みのピークを過ぎた事になる。世界の通貨の基軸になっていることを放棄するので、それ以上に資本が増殖するシステムか、少なくとも同等の仕組みに乗り換える必要があると判断している事になる。

それゃ、そうだろう。過去に起こった事、今世間で起きている事を並べてみて、それらがどういう線上にならぶか見てみると、大体この先何がどのように並んで行くか想像がつく。確かに身近なところではなく、差し当って自分に関係の薄いところの話しなので、誰にも影響しなくて自分に理が無くとも利があるところがあれば便乗させてもらえればいい。

昔、100 円で玉を 50 個ほど買って、相手も商売なら自分も商売人の生まれなので、儲けるためには出る台と出ない台はコントロールしている筈だから、それを見抜けば 2 時間で 2 千円ほど稼げた。コツは遊びでは遣らないと決めるだけだった。いつも稼いでいるところとは違う店で、4 人で待ち合わせだったので、ひと稼ぎした後、その店に下見に行った。すると台の中に 4 玉残っていた。その 4 玉を抜き出して、出る台を探して打ったら 3 玉目が入った。そのまま最後まで行き着き、また 2 千円ほど稼がせてもらった。

毎月冒頭に画像を掲げる事にしているが、今月は先日著者の笹井清範さんから贈呈頂いた書で、その割には不謹慎な内容が続いているので、ここらで話題を正そうと思う。最近はすっかり目が弱くなったのか、忍耐が無くなったのか、いや相変わらず我慢強い方だと思うので目のせいにしておこう、本を 1 冊読み上げることが少なくなった。あまりに 1 ページ、2 ページで放り投げる本が多くなったので、本自体を買わなくなった。先日も、部屋を整理するために 300 冊ほどの文庫本を捨てたばかり。でも、この書籍はかなり一所懸命読んだ。

実は先日ベランダでひと息ついていると、ふと最近は冗談を言う機会が減っていると感じた。何故かと考えた。答えが出た。正解かどうかは分からないが、『志』なんて変なものに目覚めたからだ。この笹井さんと出会った切っ掛けに水元仁志というひとがいる。一方的に世話になるというのを好まぬ人間だが、この方には一方ならぬお世話になった。それは彼が『目的の無い行動はただの暇つぶしだ』と言ったからだ。自分は人生に意味は無く、唯の暇つぶしだと思って生きて来た。

だけど真正面にひとから言われると、嫌になった。だから志を持とうと思った。だけど、そもそも志の意味が分からない。以前『お前、うちの社長をやれ』と言われたことがあった。むろん断った。これには後にすごく反省したが、その時『お前は自分を怠惰な人間だと言っているが、そうじゃない、お前には志が無いんだ』と言われた。その時は何で断っただけで志が無いなんて言われなきゃいけないの、そもそも志って何なんだって思った。

ところが、志が無いから暇なのだ、と分かった。暇なんて潰そうと思っても潰せるものじゃない。自分の理解が合っているかどうかは分からないが、目的イコール志と理解して、それまでも自分より相手を優先して生きて来たが、それは成り行きでそうして来ただけ。特に考えがあってそうして来た訳ではない。もっと言うと、自分を追いかけると忙しくって堪らないから、ひとを優先して来ただけだが、それを本気でする事にした。そうすると、冗談を言う暇も無くなったって話しだが、確かに退屈はしなくなった。考えても見てほしい、退屈しない済む人生って素晴らしいと思う。

この書籍の最後の最後の方に『生きる喜びと商売することが一致して、初めて商人の生きがいはあります』と書かれていた。使命感とまでは行かずとも、本気で『自利利他』として生きてみると、少なくとも人の見え方は変わる。別にこれが真面目と思っている訳ではない。ただ忙しくって冗談が少なくなって来た。順番は逆で最近笑わない商談が増えて来ている事に気づいただけで、こじつけに過ぎないが、真面目な事ばかり言っている自分に気づいただけだ。笑っていると福が来るが、真面目が過ぎると利益が来る。両方が程よく来てくれるといいのだが、そうは問屋が卸さない。ただ、この利についての考え方が、そういう意味では一貫して書いてある。つまり事業の目的は利ではない、目的達成のために利が必要なだけだと記されている。自分自身は、この理と利をいつも並列にしてきた。来たつもりだったが、理が優先されていたし、それは今も変わらない。

有限会社アルファー：吉田清一郎